

出産時に医療過誤被害に遭った被害者及び被害者家族の心理的被害と 心理的援助に関する研究

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
家族機能・社会行動クラスター

近年、日本において様々な事件による被害者の権利やその援助についての研究が注目されるようになった。犯罪被害者や災害被害者の心理的援助を行う団体は、過去 10 年で全国中に広がりを見せた。また、以前から問題視されていた、犯罪被害者が警察官から受ける不適切な対応からの二次被害対策として、警察署と犯罪被害者援助団体が協力し情報交換が行われるようになった。しかし、我が国において、医療過誤被害者に対する被害援助モデルや心理援助の専門家は勿論、心理的援助を中心とするボランティア団体等は皆無に等しい。医療過誤被害は、加害者がいる被害にも関わらず、医療現場での過失という特殊性から犯罪被害や交通事故被害とは異なる捉え方をされてきた傾向がある。また、医療過誤に遭ったという疑いがあっても被害者の力のみで、その被害を明らかにする事は非常に困難であり、被害者や被害者の家族に適切な保障や謝罪等が行われないことが多い。更に、被害そのものを明らかにする為に加害者側である医療従事者からのカルテの開示等が必要であり、非常にストレスフル交渉等を余儀なくされる場合が多い。このような状況から医療過誤被害者は、二次被害を受ける可能性が高く、その二次被害の大きさから被害についての真実を明らかにする事を諦めてしまう被害者も存在する。医療場面で被害を受けた被害者は、医療に対して不信感を覚える事が予想されるが、それが原因で病気の治療等で病院を利用する事を避けるようになれば、更に重大な健康被害を引き起こす可能性がある。よって、この種の被害は他の被害に比べて被害からの影響等が複雑であり、時に被害者の心理的被害を増大させる可能性が大きい。

本研究では、被害者というカテゴリーの中でも、その心理的援助が特に困難と考えられる医療過誤被害者の中から、出産時に医療過誤被害を受けた被害者及び被害者家族に焦点を絞り、被害により受けた心理的被害を明らかにする事と心理的援助について考察する事を目的に行われた。

調査方法は、被害者の被害経験や死がその遺族に対して及ぼした衝撃性や心身衰弱度、ストレス対処能力を PTSS、IES - R、GHQ、SOC 等の尺度を使用し測定すると同時に、被害者遺族が周囲の人や援助者および医療関係者等から受けた最も嬉しかった言動及び援助と最も傷ついた言動及び対応に関して自由記述やインタビューにより調査し、分析が行われた。

調査の結果、被害者（母体）及び被害者家族に共通して、IES?R の平均点が際立って高い事が判明した。また、PTSS 及び GHQ と SOC のスコアが平均を下回る事が判明し、重症の PTSD と精神健康度及びストレス対処能力の低さが見られた。被害者及び被害者家族が感じている感情には、自責感、驚き、恐怖・不安、喪失感、怒り・悔しさなどの様々なものが存在し、被害者及び被害者家族の心理状態を悪化させているものと考えられた。しかし、被害者及び被害者家族の被害についての感情に対して共感的に耳を傾ける他者は少なく、被害者及び被害者家族は、友人や知人といった周囲の人々からの心理的サポートを受けて

いない傾向が高く見られた。被害者及び被害者家族の多くは、二次被害を経験しており、被害者および被害者家族は被害後も他者からの被害についての無理解や心無い対応により傷つけられた経験がある事が明らかになった。また、対人関係に支障を持っている事や、被害前に比べ友人付き合いが減少したという三次被害を経験している被害者及び被害者家族も多く見られた。被害者及び被害者家族にとって、被害について被害者及び被害者家族が心置きなく話す事が出来る相手は、家族のメンバーか同じ被害の経験者といった限定された人物である傾向が見られた。更に、被害についての認識のズレが被害者及び被害者家族の間に生じるケースも確認された。このような結果から、本研究の被害者及び被害者家族は、直接的被害のみならず被害後の生活における様々な出来事を通して、非常に大きな心理的被害を受けている事が判明した。

一方、被害者及びその家族にとって、同じ被害を経験した者との出会いは被害者及び被害者家族にとって非常に重要な資源であり、その出会いを通して共感的な心理援助を受ける事や様々な情報を提供される事によって、自責感や被害についての疑問から次第に解放され、被害について明らかにしようとする力を得ている事が分かった。また、被害について明らかにする事を通して、自らの被害のみならず現代の医療問題の改善の為に役立ちたいと考えている被害者及び被害者家族も多数見られ、それは被害者及び被害者家族が共通して持つ使命感のようなものであると考えられる。また、この使命感は、被害者及び被害者家族に少なからず生きるエネルギーを与えているものと考えられる。